

# 人殺しが日常だった時

ビルマ敗戦行記  
一兵士の回想  
著 荻原進

世に知らぬは大きな夢のこと、  
なんすれど其の生を学ぶ

一九三八年、彼がビルマに到着



した頃にはすでに作戦が完全に  
失敗、日本軍は悲惨な撤収を  
始める。敗走。そして終戦。あとに

続く捕虜生活。ビルマの山野を

這いずる中生まけた交情を描く

一兵士の生活記録。